

委員から出された意見

第10回PI外環沿線会議

外環の必要性について

意見

- ・換気所に関する記述を、トンネル内の排出ガスを換気施設で処理し、周辺環境への影響が最小限にとどめるように努めるという表現に修正した。【提示資料補足説明】
- ・二酸化窒素等を高効率で除去可能な脱硝装置について、実用化に向けて進められている調査成果を踏まえつつ、換気施設への適用を検討していきたい。【提示資料補足説明】
- ・浮遊粒子状物質を高効率で除去可能な集塵装置について、換気施設に設置することを検討していきたい。【提示資料補足説明】
- ・外環の沿線の自排局と一般局のSPMとNO_xの濃度をみると、全体的に右肩下がりの傾向で、改善されていると考えている。【提示資料補足説明】 (山本委員)
- ・行政は外環計画の中止もあり得ることを実現させ、住民を安心させてほしい。インターはもちろん、外環及び都市計画には絶対反対。 (宿澤委員)
- ・環境調査を行う際に、区民ボランティアグループにヒアリングするのであれば、環境調査結果について、報告しに来てほしい。 (栗林委員)
- ・言われるまでもなくしっかり事前に説明をしておくべきだったと反省をしている。早速、日程を調整させていただく。 (山本委員)
- ・東京都は、「みどりの新戦略ガイドライン」を発表されて、国分寺崖線を景観基本軸に指定されているが、野川と国分寺崖線の間を外環を計画しているので、整合性について明確にしてほしい。
- ・「みどりの新戦略ガイドライン」のような施策を行う以上、外環についても十分に慎重な環境への方針の表明があってよいのではないかと。 (栗林委員)
- ・都は都市環境の保全、改善を重要な施策の1つに上げているが、これは緑の保全だけでなく、自動車公害の改善なども含めて総合的な施策を展開しているところである。外環についても、国分寺崖線、野川の環境も十分配慮しなければならないと認識している。 (山口委員)
- ・環境影響を回避するため、少なくするために環境調査を行ったのであり、生態系に悪影響を与えないための指標をあらかじめ設けるべきである。 (栗林委員)
- ・神宮外苑は約140年前に植えた緑が育って自然の緑を形成しており、緑のつくり方はいろいろある。
- ・計画が決まれば、環境に対してどのような影響を与えるか、具体的な数字で示す必要があると認識している。 (山口委員)
- ・具体的な地域のみならず、田園都市構想などの総合的な都市づくりの視点が外環の必要性を議論する上で必要である。
- ・外環をどれだけいいものにして、都市づくりを豊かにしていくという視点は失ってほしくない。 (武田委員)
- ・水や風等の環境について考えなければならないことは、都も十分認識している。 (山口委員)
- ・外環に関連する練馬から世田谷まで、最新の活断層の明示される図面などを入手してほしい。(濱本委員)
- ・今までの既存文献によると、外環のルートに活断層はないと考えているが、最新のデータを探してみ、提供できるかどうか検討していきたい。 (山本委員)

今後の議論の進め方について

意見

- ・PI会議全体で議論する内容と地域で議論すべき内容は当然違うので、一度整理をして、地域の方にフィードバックしてほしい。
- ・全体で議論した内容を各自治体の長の方に説明し、自治体側の意向として今後どうするかの方角づけも出してもらいたいと話しているので、その辺りの整理をしてほしい。 (平野委員)
- ・地元の区議会議員の方といろいろ話し合っても、情報が伝わってないようで非常に心配。外環の情報をいつ地元に戻して、区が行政としてどう扱っているのか。
- ・1回地域に持ち帰って議論してみる必要がある。一刻も早く地域で議論するために、方策などについての議論をしてほしい。 (武田委員)
- ・区議会としては練馬の出した3つの基本的な取り組みの考え方の議論に早く移りたい。
- ・全体の議論で、本線は環境の問題などの条件が整えば、ある程度の方角性は進めるのではないのか。ただ、インターや上部街路の問題は、地域の中で議論していくべきものだと思う。 (平野委員)
- ・地域ごとの話をしたいが、今の段階で全体的にどうするか決まってないので賛成できない。(渡辺委員)
- ・地上部街路の問題についても、地域ごとで確認、整理していく必要がある。 (平野委員)

- ・全体の必要性の話が一通り終わってから地上部街路の議論をするという合意ができている。(渡辺委員)
- ・比較的被害が少ないと思える地下でやるので外環をつくらせてほしいという形で出してきたと思う。これを議論・検証し、我々が納得できるのであれば、やってもいいだろうという姿勢である。
- ・地下の外環本線を検討しているが、外環の地上部が都市計画で残っているから、活用して道路をつくるというのは違う。(武田委員)
- ・必要性の議論は、構想段階から大深度地下でやった場合どうなるのかの結論を出すのが第1点である。外環が必要かどうかについて明確にした後で、地上の部分の問題や大深度の問題に入っていきべき。
- ・構想段階の議論の地域の話し合いなのか、あるいは地元の15年3月の発表の話し合いなのかを混同して議論しているので、そこを明確にする必要がある。(濱本委員)
- ・地域で必要性の議論するのはまだ早い。外環はもうできるものだと思われてしまう可能性がある。
- ・国が出されている資料にはまだ疑問が多く、解決されていないことも多い。例えば、前提条件などは忙しい方々がみるはずもなく、結果だけひとり歩きしていく。(江崎委員)
- ・構想段階でも、住民がどう考えているのかを聞いて、ここで意見を言った方がよい。(濱本委員)
- ・練馬区の区報にて、地上部等について提示した方針案を出したことが一番の混乱の原因であろう。区はあくまでも方針案だと言うが、地元にも一度も説明がない方針を区報にただ載せられると、住民に誤解を招く。(岩崎委員)
- ・今は構想段階の議論であり、外環を地下化することはまだ決定していない。外環が本当に必要なのかどうか、それを考えるべきである。次の計画段階で、大深度などの具体的な話になるべき。(渡辺委員)
- ・「外環の必要性」に関して今まで議論をし、ある程度体系立ったまとめが出されたが、地域での議論が前に進まないのは、具体的な話に進んでいくための前提がないからである。最近、PI会議にて同じような内容の議論が続いているので、議論をまとめて1つの区切りをつけた方がいいのではないかと(塩沢委員)。
- ・外環が地下になるか地上になるかもまだ決まっていないので、地上部街路の話はまだ早い。(宿澤委員)
- ・PI会議では、資料の内容と数値に関する問題の質疑応答に終始しているのがほとんどで、このままやっても終わりが無い。何か方向を変えるか、意見を出す場を変える必要がある。
- ・国と都は、今後の進行と運営に関してどういうふうを考えているのかを聞かせてほしい。(秋山委員)
- ・約3年間の議論に一定の区切りをつけていくような時期ではないか。(板垣委員)
- ・「外環の必要性」はこの資料で一通りの説明は終わった。整理をし、まだ問題があれば若干続けてもいいが、もうそろそろ区切りが必要である。
- ・PI会議は、結論を出さない場であるので、なおさらのこと今までの必要性の議論を整理して、今後の進め方を決めてほしい。(樋上委員)
- ・1つ区切りをつけて、これからの展望をどうするかの話にならないといけなない。(湯山委員)
- ・PI会議という場合は、必要性の議論する上で、過去不十分であったデータを示して議論する場と認識しており、皆さんの意見等に基づいて、資料もいろいろ出され、必要性の議論が結構されてきている。一定の整理をしてはどうかと思う。(望月委員)
- ・PI会議は一定の成果があったと思うので、どういう成果があったかについてしっかり洗い出してほしい。
- ・地上部やインターチェンジの議論をいきなり地域で必要性を論じるのは短絡に過ぎるのではないかと。今後どうやって議論をしていけばいいのかは、この場でまず1回は議論しておくべきである。
- ・「外環の必要性」は、最後の2、3ページはまだ残っているので、議論をすべきである。(栗林委員)
- ・今後どのようなまとめ方、進め方をするのか、聞かせてほしい。
- ・議会や首長にどういう説明をしているのか心配されていたが、逐一状況等は説明をしている。(大川委員)
- ・話が次に移ったから終わったわけではなく、まだ話し尽くせてないこともあるはずなので、もう少し慎重に考えてほしい。(江崎委員)
- ・意見や論点は、仮に外環を整備することになれば、当然すべて議論しないといけない事項である。しっかり地域の皆様方、住民の代表の皆様方と意見を交換しながら議論を進めていきたい。
- ・それぞれの事項を、どの段階で、どの場所で議論すべきなのかをしっかりと整理する必要がある。
- ・「外環の必要性」の資料で、将来交通量や経済効果など、今の段階で出せる資料は一通り出せたと考えている。議論が足りないことについては、議論すべきと思っている。
- ・構想段階の必要性として、整理をすべき時期に来ていると思っている。
- ・引き続き議論すべきことはあり、全体で議論することと、地域ごとで議論することの整理は必要である。
- ・次回、今後の進め方について提案させていただく。(山本委員)

オープンハウスと意見を聴く会について

- | | |
|----|--|
| 意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市の意見を聴く会の議事録に、都が発言していない内容が書かれているので消去すべき。 ・全然発言していないことを議事録に載せられると、議事録が信用できないものになる。(濱本委員) ・今すぐ事実確認は出来ないで、事務局で確認を行う。(山口委員) ・地域ごとの説明会や意見を聴く会を、何回もやっていただきたい。(宿澤委員) ・話し合いをこれっきりにするつもりはない。地域の話し合いは非常に重要であり、しっかりやらせていただく。形式や日時について、都、地元区市とよく相談した上で決めさせていただきたい。(山本委員) |
|----|--|

